

研究計画書

<p>研究者：渡邊 真智子 所属部署：袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部 4階病棟</p> <p>共同研究者：二橋宏嘉¹⁾, 村松亜由美²⁾, 岡田史郎³⁾, 鈴木明日香³⁾, 則次祐美³⁾, 鳴川貴司⁴⁾, 貝久保浩子⁵⁾</p> <p>共同研究者の所属部署：1) 袋井市立聖隷袋井市民病院 診療部 2) 袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部 4階病棟 3) 袋井市立聖隷袋井市民病院 リハビリテーション室 4) 袋井市立聖隷袋井市民病院 薬剤室 5) 訪問看護ステーションあしたば</p>
<p>研究テーマ</p> <p style="text-align: center;">A病棟における転倒再発を予防するための取り組み—転倒検証プロジェクトの活動を通して—</p>
<p>研究の背景・意義（先行研究及び関連文献の検討を含めて記述する）</p> <p>平成 28 年度版厚生労働白書(2017)によると、わが国の人口のうち、65 歳以上の人口割合で示される高齢化率は 2015 年に 26.7%となり、今後も上昇を続けることが推計されている。近年注目されている高齢者の虚弱(フレイル)は、高齢者の低栄養状態や転倒を招き、徐々に要介護状態に陥ると考えられている。後期高齢期には骨折による入院受療率が増加する傾向があり、入院在院日数は高齢になるほど長い。後期高齢者の一人当たりの入院費は若い人の 6.8 倍と高い。そのため、高齢者の入院療養生活における転倒予防は、高齢者の ADL の低下を防ぐことだけでなく、適切な入院期間や医療費の増加を防ぐ観点からも重要である。</p> <p>中村(2008)は、転倒を繰り返す高齢者は、転倒によって得られた否定的経験から再転倒への不安を増幅させ、その結果自らの行動を再規制し縮小させるという消極的な行動へ変化させることを明らかにした。高齢者が安全に入院生活を送るための医療者の役割は大きい。</p> <p>病院内の転倒予防を目的としたワーキンググループの取り組みによりいくつかの施設では転倒件数が減少している(杉谷ら, 2018. 小林ら, 2017)。秋山(2017)は転倒転落後の現場検証を他職種で行うことにより、スタッフが患者の身になって要因を分析し患者の行動の根拠やつらさに気づき、その人に合わせた個別な対策を計画・実施するようになったと述べている。中野, 津田(2018)は複数回転倒した精神疾患患者に対し、転倒予防チームがラウンドし、要因分析や転倒予防対策を指導することで以降の再転倒を予防することを明らかにした。</p> <p>A 病棟では、2018 年に同一患者の転倒が複数回発生した。複数回転倒症例を分析したところ、多職種でのタイムリーな事例の共有や、患者の身体機能の認識が職種間で違う事が分かった。そこで、多職種で構成する転倒検証プロジェクトチーム(以下、転倒検証 PJ)を立ち上げ、同一患者の再転倒を予防する目的で 2019 年 1 月から活動を開始した。転倒検証 PJ の主な活動は、①転倒事例が発生した翌日、転倒検証 PJ メンバーが集まり、転倒場所での検証に加え、患者の行動要因や身体機能、心理社会面への影響を含め転倒事例を振り返り、再転倒を予防するための具体的な対策を検討すること、②四半期毎にミーティングを行い、活動の振り返りを実施することとした。</p> <p>今回、転倒検証 PJ の活動を振り返り、A 病棟における転倒件数や、再転倒数がどのように変化したのかを明らかにする。転倒検証 PJ 活動の妥当性や今後の活動の示唆を得ることが必要であると考えた。</p>
<p>研究の目的</p> <p>転倒検証 PJ の活動を通して、A 病棟における転倒件数や再転倒数がどのように変化したのかを明らかにし、転倒検証 PJ の活動の妥当性や今後の活動の示唆を得る。</p>

研究方法

① 研究デザイン

調査研究

② データ抽出期間

2019年4月1日から2021年3月31日

③ 研究対象者

A病棟において、2019年4月1日から2021年3月31日にIAレポートで、「転倒・転落」として報告された患者

④ 研究期間

倫理審査承認後～2021年10月末日

⑤ 研究方法

IAレポートを後ろ向きに調査する。「患者の属性（年齢・性別）」、「転倒転落件数」、「転倒転落再発件数」、「転倒転落による影響レベル」を明らかにする。データ抽出期間における転倒件数や再転倒数の推移を調査する。

倫理的配慮

本研究は、袋井市立聖隷袋井市民病院倫理委員会の承認を得て実施する。収集したデータは、本研究以外で使用しない。研究で収集した全ての紙媒体及び電子データはデータ収集を行った順にID化し個人が特定できないよう匿名化を行う。データの抽出から分析の過程でインターネットに接続可能なパーソナルコンピュータ上には保存せず、パスワードロックをかけたUSBメモリに保存する。データは院外に持ち出さない。保管は、院内の施錠可能な場所で研究終了後5年間厳重に保管し、その後、電子データは媒体から完全に削除し、紙媒体はシュレッダー処理により粉砕する。

【倫理研修】APRIN RCR/HSR 受講済（#AP0000158766 西暦2019年1月21日修了）

同意書の手続き

本研究は診療録を用いた調査研究であるため、研究対象者から文書あるいは口頭による同意取得は行わない。但し、人を対象とする医学系研究に関する倫理指標で示されている「インフォームドコンセントを受けない場合において当該研究の実施について公開すべき事項」の公開と被験者または代諾者に研究参加拒否の機会を与えるため、オプトアウトについての資料を提示する。

結果の公表予定

本研究の研究結果は日本転倒予防学会第8回学術集会への発表及び学会誌の論文として報告を予定している。公表の際には、研究対象者の個人情報特定されないよう匿名化する。

引用・参考文献

- 厚生労働省 平成29年版厚生労働白書－社会保障と経済成長－図表1-2-7 年齢3区分別人口及び人口割合の推移と予測
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/17/backdata/01-01-02-07.html> (2020.3.15)
- 厚生労働省 高齢者医療の現状等について
https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000125580.pdf (2020.3.14)
- 厚生労働省 健康づくり推進本部ワーキングチーム1『高齢者の介護予防等の推進』のこれまでの検討状況まとめ

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkoudukuri_sokusin/dl/kennkou02-04.pdf

(2020. 3. 14)

- ・中村陽子(2008). 転倒を繰り返す高齢者の再転倒後における転倒恐怖感を与える影響.
福井大学医学部研究雑誌 9(1, 2), 19-34.
- ・中野ますみ, 津田末子(2018). 精神疾患患者における転倒対策—転倒予防チーム活動—.
第 48 回(平成 29 年度)日本看護学会論文集 精神看護(2018), 99-102.
- ・秋山ゆかり(2017). 転倒転落事例に対するウォーキングカンファレンスによる現場検証.
第 47 回(平成 28 年度)日本看護学会論文集 看護管理(2017), 297-300.
- ・小林和克, 今釜史郎, 稲垣祐子ら(2017). 院内の転倒予防に向けて. *Geriatric Medicine*, 55, (9), 1003-1006.
- ・杉谷英太郎, 三宮克彦, 渡邊進(2018). 回復期ケアミックス病院における転倒予防ワーキンググループの取り組み.
MEDICAL REHABILITATION, 221, 32-42.

研究計画書の提出日 2021 年 6 月 10 日

研究計画書の修正日 2021 年 7 月 13 日